

“Life (いのち) を大切に Life (くらし) も大切に” 「“強くてしなやかな” 静岡」の実現

1. 「自然の宝庫」静岡市

静岡市は、北に南アルプスの3,000m級の高峰を擁し、南は最深部約2,500mの駿河湾まで、南北に長い地形を有しています。市域のうち約76%を森林が占めており、市域の中央部を流れる安倍川、巴川のほか、富士山世界文化遺産の構成資産である「三保松原」を望む「日本平」、白雪を冠する富士山を背にした景観が秀逸である「薩埵峠」を有するなど、自然豊かな地域です。

2. 強靱な社会基盤の実現のために

昭和49年の「七夕豪雨」では、巴川が氾濫し、さらに清水区由比地域では、大規模な土砂崩れが発生するなど、市内全域が甚大な被害に見舞われてきた地域です。

そこで、「強くてしなやかな静岡」の実現を理念とし、「安心・安全をみんなで創る、強くしなやかで持続可能なまち」を目指した「静岡市国土強靱化地域計画」を策定、事業を推進しています。

近年、激甚化する台風や集中豪雨、頻発化する地震などの自然災害を防ぎ、被害を最小限に留めるため、事前防災・減災と迅速な復旧復興に資する地域づくりを進めています。

風水害に伴う浸水対策では「静岡市浸水対策推進プラン」に基づき、人命を守ることを最優先とした事業等を推進しています。

地震対策では、基幹的交通ネットワーク確保として、新東名高速道路など本市への広域的な接続性を高める大規模社会資本の整備、道路の耐震化、長寿命化、適切な維持管理等を促進しています。

3. 浸水対策推進プランの実施

浸水被害の早期軽減を図るため「静岡市浸水対策推進プラン」を策定し、河川・下水道の基幹施設及び公共施設等を利用した貯留浸透施設の整備に取り組んでいます。

現在、第4期計画（令和元～4年度）を実施しており、さらに、近年の集中豪雨に備え、ハザードマップでの情報提供などにより自助の促進を図り、浸水被害の軽減を図っています。

また、流出抑制対策として、市民が設置する雨水貯留浸透施設に対し、一部費用を補助する制度なども設けています。



河川改修
(清水区平川地区)



広野2号雨水幹線
(駿河区広野地区)



静岡市長 田辺 信宏

4. 中部横断自動車道の開通

南海トラフ地震による被害が想定されることから、災害時に広域的な対応を可能にするため、強靱な広域交通ネットワークの構築が不可欠です。

令和3年8月には中部横断自動車道の静岡―山梨間が全線開通し、新東名高速道路と中央自動車道が繋がりました。

「交通ネットワークの形成」「南北軸強化」「緊急輸送道路の確保」によって、大規模災害時においても複数の輸送経路が整備され、国土強靱化に寄与するものと期待しています。



中部横断自動車道全線開通（静岡―山梨間）

5. 由比地区地すべり対策事業

清水区由比は、駿河湾に面した風光明媚な地区で、「薩埵峠」はその急峻な地形から東の箱根峠越え、西の鈴鹿峠越えと並ぶ道中の難所でした。

現在は、海岸線に東名高速道路・国道1号・JR東海道本線など主要な交通機能が集中しており、日本の東西交通の要衝となっています。



歌川広重「東海道五拾三次之内（由井・薩埵嶺）」
保永堂版 静岡市東海道広重美術館蔵



現在の薩埵峠

この由比地区において、風水害、豪雨、南海トラフ地震等による大規模な地すべりを未然防止するため、平成17年度から、国による計画的な地すべり対策事業を実施しています。

6. 安全・安心のために

本市では、市民の「いのち」と「暮らし」の“2つのLife”を守っていきたくと考えています。

「強くてしなやかな”静岡”」実現のため、災害時に人命・暮らし・経済を守り、これらを支える重要なインフラの機能を維持できるよう、国、県、市で連携し、今後も対策を推進していきます。